

令和3年度第1回一橋大学機関リポジトリ運営会議議事要旨

日時：令和3年6月23日(水)9時00分～10時40分

場所：オンライン会議

出席者：三隅(統括責任者)、阿部、山下、磯部、緑、佐藤(文)、松原、佐藤(進)、風間 各委員

事務局：学術情報課(山中、菅原(光)、山下、菅原(由))

委員の紹介

議事に先立ち資料1に基づいて、令和3年度一橋大学機関リポジトリ運営会議委員の紹介があった。

I. 報告事項:

1. 令和2年度第3回一橋大学機関リポジトリ運営会議議事要旨

資料2に基づいて前回議事要旨の確認を行った。

2. 令和2年度一橋大学機関リポジトリ事業実施報告

菅原電子情報係長より資料3に基づいて報告があった。

3. 博士論文の本学機関リポジトリ登録状況について

菅原電子情報係長より資料4に基づいて報告があり、以下のとおり質疑応答を行った。

- 学位授与後1年以内の本文の公表が難しい場合には、要約を公表する必要があることを、プロポーザル等の段階で学生に周知する必要があるのではないかと。
 - 学生が博士論文の出版を希望していても、1年以内の実現することが難しいこともある。もし出版の見通しが立たないようであればきちんと要約を提出するように、学生に周知するのが良いのではないかと。
- 本文または要約の公表について、各研究科における学生への周知方法を確認する。また、大学院生の教務関係事項を所掌する大学院教育専門委員会に、本文または要約の公表状況を報告する。

4. 本学機関リポジトリ関連の各種統計について

菅原電子情報係長より資料5に基づいて報告があり、以下のとおり質疑応答を行った。

- 機関リポジトリに収録されている目録や本文の閲覧数が下がった原因として、令和2年9月末のシステムリプレイス後に様々な情報のリンク切れが発生してしまい、新しいシステムのユーザインタフェースに到達することを諦めてしまったユーザがいる可能性はないかと。
 - SSRN(Social Science Research Network)では、各論文の識別子としてこれを使ってくださいといった案内が表示されている。本学の機関リポジトリでも同様の仕組みができていないかと。
- 本学機関リポジトリでも、研究成果にDOIやhandleといった識別子を付与することができる。識別子が振られている研究成果については、識別子の情報を画面上部に示すようにしているが、このことについて、また識別子の利活用について図書館広報誌等でアピールすることとする。

- 世界リポジトリランキングについては、分野の特性や機関の規模等も影響することから、それらを調整できるような統計があるのであれば、そちらを参照するのが良い。

5. その他

特になし

II. 審議事項:

1. 令和2年度一橋大学機関リポジトリ事業決算について

菅原電子情報係長より資料6に基づき説明があり、原案どおり承認された。

2. 令和3年度一橋大学機関リポジトリ事業計画について

菅原電子情報係長より資料7に基づき説明があり、原案どおり承認された。

3. 令和3年度一橋大学機関リポジトリ事業予算について

菅原電子情報係長より資料8に基づき説明があり、以下のとおり質疑応答を行った後、原案どおり承認された。

- 著作権処理の外注について、この処理件数の如何によっては学術雑誌掲載論文の公開が進まない可能性もある。照会が必要な学会・出版社が限られているのであれば、効率的・自動的に処理できるような工夫が考えられないか。また、他の大学でも同じような処理をしているのであれば、共有できるようなリストがあると良いのではないか。
- これまでに照会した学会や出版社については対応履歴を管理しており、先方の意向を把握できていれば、再度の照会を省略する等の工夫をしている。また、JPCOARで国内学協会の著作権ポリシーをデータベース化しており、定期的に学協会に照会をして情報の充実化を図っている。

4. その他

阿部委員より、他大学における卒業アルバムの電子公開の事例について紹介があった。機微な情報等の扱いには注意を払う必要があるものの、こうした事例を参考としながら、本学における同様の資料の公開方法について検討することが提案され、了承された。

III. その他:

1. 研究データの管理・公開に関する動向について

菅原電子情報係長より資料9に基づき説明があり、研究データの管理・共有方法、研究データの扱いに関する外部の要請、機関リポジトリを使った研究データの公開に関する課題等について意見交換を行った。

以上